第10回錯視・錯聴コンテスト応募作品

「　影の運動による色の捕捉現象—その３　」

（１）12018IC青赤反対方向円低速.mov

（２）22018IC青赤反対方向円.mov

これは「林の影の運動による色の捕捉錯視現象」の一つのバリエーションである。これを10 frame/secでゆっくり動かした時（１）、円環状に配置された大きな青円は順次反時計回りの仮現運動を示し、小さな緑円は順次時計回りの仮現運動を示す。また、16個の青円の内、上下左右の４カ所に赤円が影の運動にタイミングを合わせて提示され、緑の小円の動きに合わせて青円の左右の２カ所に濃い青円が提示されている。これを70 frame/secの速さで提示すると（２）、青によって誘発された時計回りの影の運動と、緑小円によって誘発された反時計回りの影の運動、ならびにそれらによって捕捉された赤円の時計回りの、濃い青円の反時計回りの運動が知覚される。観察者によっては円環の上下で捕捉された赤円と濃い青円が互いに反発する様子が観察される場合もある。

この現象の意義は、影の運動を誘導する刺激の形やサイズが捕捉する刺激とは異なっていても、影の運動が捕捉される刺激の近傍で、タイミングよく提示された場合には捕捉現象が生じるという点である。しかもこの事象においては、時計回りの影の運動に捕捉される色刺激（赤）は上下左右の４カ所に提示されているが、反時計回りの影の運動に捕捉される色刺激（濃い青）は左右の２カ所しか提示されていない。ここでは時計回りの影の運動に捕捉される赤刺激（これは上下左右の４点に提示される）と上下の２カ所で重なり、赤刺激に遮蔽されたものとして濃い青刺激が知覚され、その結果赤刺激同様の捕捉現象が生じることが考えられる。

この捕捉現象を改めて考えてみると、影の運動とは本来特徴を持たない影が運動しているわけであるから、どのような特徴であっても捕捉されるというのは当然のことと考えられる。この点を確認したものが次の３つの現象である。

（３）32018IC青赤反対方向四角.mov

（４）42018青赤反対方向四角変形.mov

（５）52018IC反対方向四角のみ.mov

（３）では反時計回り影の運動誘導刺激の形を四角形に変え、（４）ではその四角形を変形させた。（５）では時計回りの影の運動誘導刺激を排除し、しかも反時計回りの影の運動誘導刺激を四角形とした。これらの条件においても濃い青円の捕捉現象が観察される。

所属・氏名　：　北星学園大学短期大学部　中村　浩

メールアドレス　：　knakamura(at mark)hokusei.ac.jp